
秋田県こども支援エリア説明会 生徒らに不安の声

秋田県が盲、ろう、特殊教育学校などを、秋田市上北手の南ヶ丘ニュータウンに一体整備する「こども総合支援エリア（仮称）」構想に関する説明会が22日、始まった。秋田市のろう学校では、県は施設の充実ぶりを強調したが、生徒や保護者からは各施設を移転、統合させることに疑問や不安の声が相次ぎ、温度差を見せつけた。

25メートルプール、大小の体育館、スクールバス（3台）の配備、250メートルトラックのグラウンド、視覚障害者対応の野球場―。この日、県が明らかにした施設の概要は多分に魅力的だ。

しかし、説明会参加者の声は冷ややかだ。高等部の男子生徒は「開設時に、ぼくは大学生が社会人になっていて、エリア構想には無関係ですが、自分の学校がなくなるのはとても残念。なぜ今のままでは駄目なのですか」と疑問を投げ掛けた。

保護者らも「10年間温めた構想と聞くが、地域との交流が絶たれ、ろう学校として魅力は感じない」「地域の小さな商店など、社会の中にはいろいろな役割があることをエリアで学ぶのは難しい」などと意見を述べた。

閉会時、県側は「関係部署が長い時間をかけ、専門家や関係する学校長らの意見を聞いた上でまとめた構想だ。ぜひ、いい施設にしたい」と強調した。

エリア構想は、診療部門や総合相談・地域療育支援センター部門、肢体不自由児施設といった入所部門などをまとめた「療育機関」と、盲・ろう・総合養護学校の施設群「特別支援学校」とを隣接、連携させる。

2010年に運用を始め、県北、県南の各種施設ともネットワークを結ぶ。9月定例県議会で、エリアの用地取得費約30億2500万円を盛り込んだ一般会計補正予算案が可決されている。

2006年11月22日水曜日
